

吾輩は志木の猫である

ペットとして、最近ますます人気が出ている「猫」。テレビ番組やインターネットの投稿動画などで見られるかわいいう仕草や表情、時にはいたずらを働いているお茶目な姿に癒やされるといふ皆さんも多いのではないのでしょうか。一方で、飼い主のいない猫＝野良猫による、悪臭や鳴き声などの問題が人の暮らしに害を与え、トラブルとなっている現状があります。猫ブームが到来している今、改めて、人と動物とが共存できる地域をつくっていくため、私たちにできることを考えることが大切です。



野良猫はなぜ減らないのか

市内の住宅地でも、時折見かける野良猫。野良猫が減らない原因に、心無い飼い主による飼育放棄や、不適切な飼育があります。猫は、1年に2〜3回妊娠し、1回に4〜8匹出産するほど、繁殖力の強い動物です。飼い方を誤ると、自然繁殖によって数が大きく増え、その結果、「庭に糞尿をされ悪臭がする」、「鳴き声がうるさい」といった地域のトラブルを招きやすくなります。こうしたトラブルは、私たちの暮らしにマイナスになるだけでなく、猫たちにも不幸な環境になるのです。

平成27年度は1千304匹が殺処分

市では、捨て猫やえさやりの禁止に関する看板を配布するなど、「殺処分ゼロ」に向けて、野良猫を増やさないための啓発を行っています。しかしながら依然として、野良猫に関する相談も寄せられる状況にあります。

平成27年度、埼玉県の動物指導センターで殺処分された猫は、1千304匹。猫だけでなく、ペットは、終生責任を持って可愛がり、また、野良猫は、地域でルールを作って適切に管理していくことが、殺処分を減らし、動物を愛護することにつながります。

問合せ／
環境推進課
内線2317



野良猫に命を全うさせるための 地域猫活動

皆さんは、「地域猫活動」を知っているでしょうか。この活動は、野良猫の数を増やさないため、ボランティア団体が避妊・去勢手術や適切なえさやり、糞尿清掃を行い、地域の理解を得てその猫に一生を全うさせることで、人と猫との共存を図るものです。

市では、平成28年度から、埼玉県の補助金を活用し、地域における野良猫対策としての「地域猫活動」への支援を実施しています。

町内会で結成 城ヶ丘のらちゃんなくし隊

市内で、地域猫活動のモデル地区となっている城ヶ丘町内会（幸町4丁目付近）は、以前から、野良猫が住み着いていた地域です。数年前に宅地造成が進み、野良猫が町内で大きな問題となったことをきっかけに、地域の皆さんが「城ヶ丘のらちゃんなくし隊」を結成し、以来、地域猫活動に取り組んでいます。「縁あって同じ町内に住む人同士が、猫のせいでトラ



▲城ヶ丘のらちゃんなくし隊の皆さん

ブルの当事者になっては悲しい」と、活動への想いを話すのらちゃんなくし隊の皆さん。これまでに、猫に安全な捕獲器を使って、町内に30〜40匹いた野良猫のうち19匹に避妊・去勢手術を受けさせた結果、地域の皆さんから、「糞尿の臭いが少なくなった」「けんかの鳴き声がしなくなった」という声も上がるなど、成果が出ています。

人の心を豊かにしてくれるペット 終生可愛がるためには

猫との暮らしは、私たちの心を癒やし、豊かにするものです。今回、そんな猫たちに終生幸せに過ごしてもらうためのポイントについて、志木いわい動物病院（柏町）の岩井先生にお話を伺いました。ペットをこれから飼いたいと考えている人も、すでに飼っている人も、正しい飼い方を知り、ペットと楽しい生活を送りましょう。

猫は外に出さないで 室内飼いを

猫は、人と同じように病気にかかります。概ね15〜20年生きるため、病気によつては、何年も通院が必要になることもあります。飼っている猫が元気なときばかりでなく、病気になった際に飼い主にかかる通院の手間や費用の負担も考えておき、終生可愛がるのが大切です。

病気を防ぐためには、室内飼いが有効です。外飼いをすると、お腹に寄生虫が入ったり、野良猫とけんかしてけがを負い、感染症に

かかる危険性があります。猫の感染症は、抵抗力の弱い高齢者や子どもに伝染することもあります。猫や飼い主の健康を守るため、室内飼いをしましょう。

自分の生活スタイルが 変化することも考える

猫の寿命は15年以上あるので、飼っている間に、引越や育児などで飼い主の生活スタイルが変化することも考えられます。万が一飼えなくなったときに備えて、家族や友人など、代わりにしてもらえる飼い主を探しておくことも大切です。



▲志木いわい動物病院（柏町）
院長・獣医師 岩井哲先生